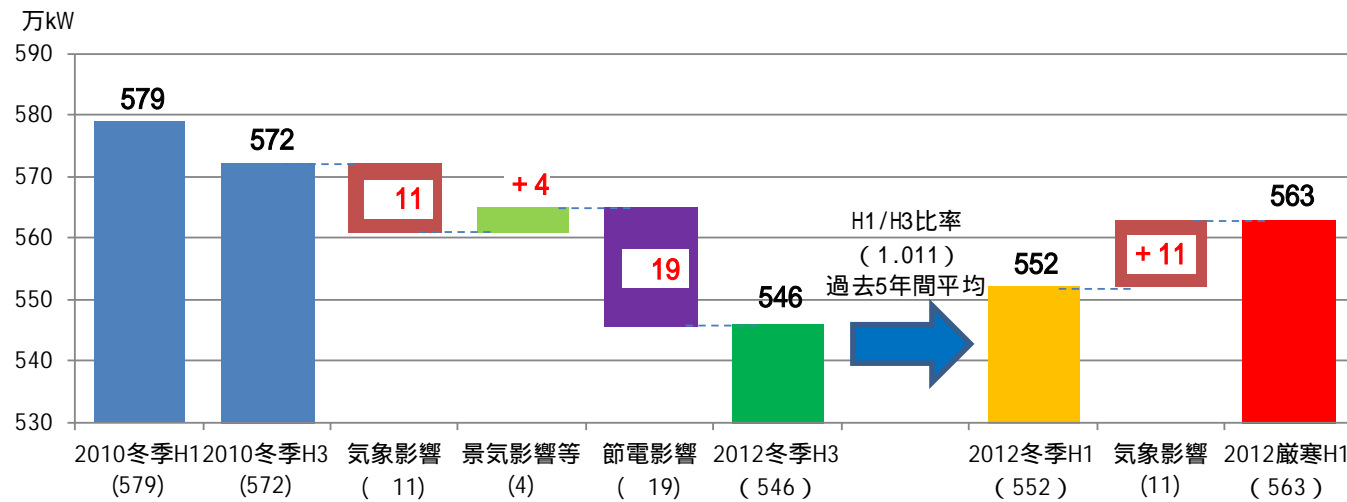


今冬の電力需給見通しについて

1. 2012年度最大電力想定のお考え方

- ・2010年度冬季の需要と比較すると、定着した節電影響が19万kW、景気影響等が+4万kWになるものと想定しました。
- ・これらの影響をふまえ、2012年度の1日最大電力(H1)は、2010年並みの厳寒を前提として、563万kWと想定しました。



2. 今冬における供給力の確保

- ・7/31に需給状況をお知らせした以降、緊急設置電源の追加導入、自家発電購入の拡大や火力発電設備の増出力運転により、供給力の上積みを行いました。

[万kW]

| | 供給力(2月) | 主な実施内容 |
|-----------|---------|---------------------------------------|
| 7/31プレス時点 | 580 | |
| | ↓ | |
| 9/5プレス時点 | 589 | 緊急設置電源追加導入(+7:南早来変電所) 自家発電電力購入(+2) |
| | ↓ | |
| 今回(10/12) | 596 | 火力増出力運転(+3:苫東厚真2・4号) 道外からの受電(+4) |

3. 今冬における需要対策

| 契約種別 | 内容 | 昨冬契約実績 | 今冬見込み | |
|--------|--------------------|---|---------------------|----------------|
| 計画調整契約 | 操業調整契約 | あらかじめ日時を決めて、電気の使用を抑制する契約。 | なし | 約150口 約9万kW |
| | 休日調整契約 長期休日調整契約 | 平日の操業を休日に振り替えたり、長期休日を設定したりすることにより、電気の使用を抑制する契約。 | (昨夏) 7口 約2万kW | 約10口 約1万kW |
| 随時調整契約 | 通告調整契約 | 需給が逼迫することが見込まれる場合に当社からの要請により、電気の使用を抑制する契約。 | 28口 約5万kW | 約20口 約1万kW |
| | 瞬時調整契約 | 需給が逼迫した場合に当社からの要請により、電気の使用を抑制、または中止する契約。 | 11口 約6万kW | 11口 約6万kW |
| | 随時募集調整契約(今冬新規) | 需給がひっ迫するおそれがある場合に当社から募集(需要抑制希望日時を連絡)し、需要抑制実施時までに応募いただいたお客さまが電気の使用を抑制する契約。 | なし | 約20口 数千kW |
| | 冬季需給調整実量特約 | 1か月ごとの最大需要電力を比較して、前年同月の最大需要電力を下回る場合に、抑制いただいた電力(kW)を割引対象とする契約。 | なし | 24,000件以上 |
| | アグリゲータの活用(今冬新規) | 中小ビル・工場等の省エネを管理・支援する事業者(アグリゲータ)にご協力いただき、電力需要の削減を図ります。 | なし | 3社程度 数千kW |

4. 今冬の電力需給の見通し

- ・今冬における需給見通しは下表のとおりです。
- ・最も需給が厳しい2月において予備率5.8%を確保していますが、これは伊達発電所や知内発電所1機(35万kW)分に相当し、停止すると予備率がほぼゼロとなり、北本からの受電が必要となります。

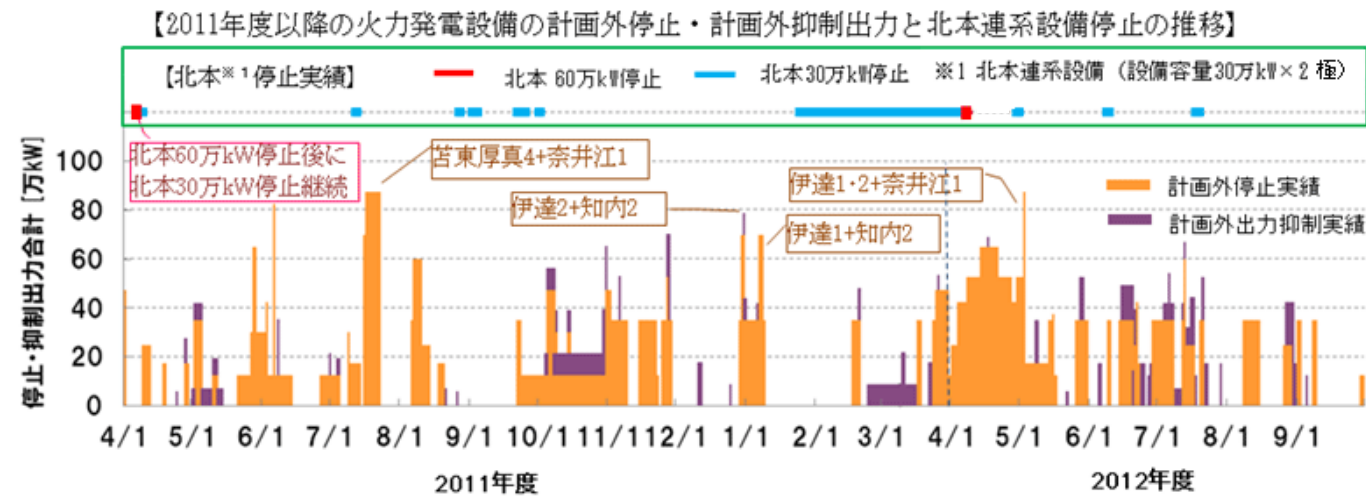
[万kW]

| | 実績(ピーク需要日) | | 今冬の見通し(節電織込み、厳寒時) | | | |
|---------|------------|--------|-------------------|-----|-----|-----|
| | 2010年度 | 2011年度 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 需要 | 579 | 568 | 563 | 563 | 563 | 536 |
| 供給力(合計) | 674 | 621 | 607 | 601 | 596 | 580 |
| 原子力 | 119 | 95 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 火力 | 442 | 451 | 484 | 483 | 483 | 479 |
| 水力 | 72 | 72 | 80 | 76 | 77 | 70 |
| 揚水 | 40 | 30 | 40 | 39 | 34 | 28 |
| 地熱等 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 融通 | 0 | 29 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 供給力-需要 | 95 | 53 | 44 | 38 | 33 | 44 |
| 予備率(%) | 16.4 | 9.3 | 7.8 | 6.7 | 5.8 | 8.2 |

四捨五入の関係で合計が合わないことがある。

5. 発電設備の計画外停止・計画外出力抑制実績

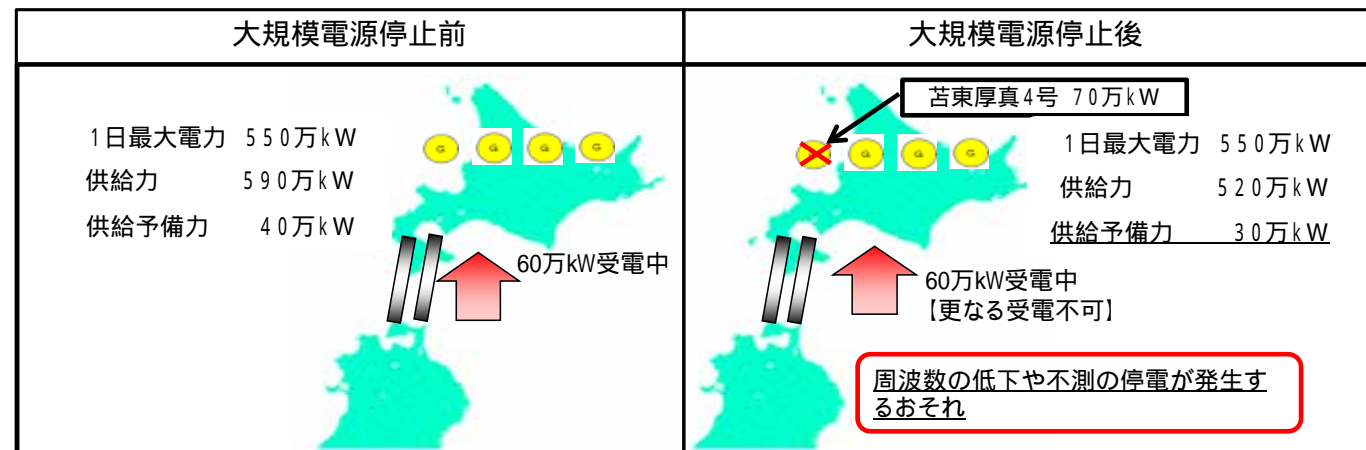
- ・昨年度における、火力・水力発電設備の計画外停止・計画外出力抑制の平均値は31万kWでした。
- ・加えて、火力・水力発電設備が複数台停止し、停止量が最大で96万kW(苫東厚真4+奈井江1+新冠1)となった事例や発電設備と北本連系設備が同時に停止した事例もありました。
- ・また、当社火力発電設備における計画外停止・計画外出力抑制の発生件数を4~9月実績と比較すると、昨年度29件(出力減少平均値14万kW)に対し、今年度は45件(同23万kW)と1.6倍に急増しております。



6. 北本連系設備平常時の運用の考え方

- ・北海道エリアにおいて大型電源の計画外停止等により供給力が不足した場合、北本連系設備を通じて本州系統から受電し、北海道内の安定供給を確保します。
- ・このため、設備容量の全量にあたる60万kWを事前に受電している際に、道内の電源が脱落すると本州側からの更なる融通受電は不可能となります。
 → 系統状況によっては、周波数の低下や不測の停電が発生するおそれもあります。
- ・したがって、平常時は電源脱落時等に本州側からの受電が可能となるよう、北向きに一定の追加送電容量を確保する必要があります。

以上



7. まとめ

- ・今年度における冬季の厳寒時を想定した最大電力は、厳しい気象状況(気温と降雪)であった2010年度の最大電力(H3)発生時の気象影響を考慮し563万kWとしました。
- ・供給力については、火力発電設備の増出力運転の拡大、緊急設置電源の設置や他の事業者や自家発をお持ちのお客さまからの電力購入などにより、最大限の上積みを図り、最も需給が厳しい2月において596万kWの供給力を確保しました。
- ・この結果、今冬の電力需給の見通しは、2月における供給予備力が5.8%となりました。
- ・但し、昨年度において計画外停止・計画外出力抑制が年間を通じて発生しており、その平均値は31万kWでした。
- ・また、火力・水力発電設備の複数台同時停止により最大で96万kWの停止実績もありました。今冬において同様の事象が発生した場合、北本を最大限活用しても供給力不足となるおそれがあります。
- ・今年度に入り火力発電設備の計画外停止・計画外出力抑制が急増しており、気象状況が厳しく、夏季と違って電力ピークの発生が12月から3月まで長期間に及ぶ北海道の冬季における安定供給を確保するためには、電源の計画外停止等のリスクを考慮する必要があります。